

七十七ビジネス大賞受賞

第12回(平成21年度)

企業 インタビュー

Interview

ヤマセ電気株式会社

代表取締役社長 小林 清男 氏



会社概要

住 所：加美郡色麻町四竈字はぬ木町154-1
設 立：昭和47年
資 本 金：99百万円
事業内容：電気機械器具製造（製品開発、自動機設計・製作、金型設計・製作（プレス・成形）、部品加工（プレス・成形・塗装・実装））
電 話：0229（65）4016
U R L：http://www.yamase-net.co.jp/

宮城県の製造業を牽引するヤマセグループを構成し、地域経済発展・雇用機会の創出に大きく貢献

今回は「七十七ビジネス大賞」受賞企業の中から、ヤマセ電気株式会社を訪ねました。当社は、宮城県内に4社6工場、従業員850名を有するエレクトロニクス分野専門の企業グループの一つ。製品の開発から部品加工、金型設計・製作、試作、生産設備、加飾、量産、納品に至るすべての分野でハイクオリティなトータルサービスを提供。当社の小林社長に、今日に至るまでの経緯や事業の特徴などについてお伺いしました。

感謝の心をもって

——七十七ビジネス大賞を受賞されたご感想をお願いします。

当社が創業以来約40年にわたり事業を継続し、今回受賞できたのは、お客様はじめ、社員、金融機関や大勢の皆様の支援のおかげであると心から感謝しております。今回の受賞は、モノづくりを通して地域の経済や雇用などに貢献できたことが認められたものと謙虚に受け止め、今後も地域の活性化に貢献できるよう励んでいきたいと思っております。

また、国内での事業は依然として厳しい状況ですが、今後も技術の向上や新規事業などにも積極的に取り組むことで事業を発展させ、皆様の期待に応えていきたいという想いで、奨励金で記念植樹を行いました。「イチイ」という日本古来の常緑針葉樹で、一位になる、頂点を目指すという想いを込めています。

——創業の経緯についてお伺いします。

当社は昭和47年に電気機械器具製造業として創業しました。当初は、アルプス電気様のステレオラジオ用の部品を手掛けており、その後時代の変遷と共に事業分野を拡大していきました。私は、それま

でも電子機器の仕事に携わっており、同業界の成長性を見据え、色麻町に社員約30名で創業しました。社名の由来は、私の実家の屋号からとったものです。「ヤマセ」という言葉は、当時の宮城県では冷害を及ぼす北風のイメージがありましたが、最近では勢いのある風をイメージし、「強さ」を感じる人が多いようです。

創業以来、不景気や構造の変化などにより厳しい局面は多々ありましたが、自分が好きで始めたことなので苦勞したという感覚はあまりありません。製造業では、以前は大量生産が主流でしたが、現在は大量生産の拠点は海外へと移っています。一方国内では、人々のニーズの多様化により多品種少量生産や変種変量生産が求められるようになり、それに応じて当社の扱う製品も変化してきました。このような時代のニーズに素早く対応できる生産システムの構築に積極的に取り組むことにより、着実に事業展開を図っています。

——経営理念についてお聞かせください。

当社では、「常に感謝の心を信条とし、生きがいのある生活を求め、信頼性の高い商品創りを通して、お客様と地域社会の期待に応える」を経営理念に掲げています。事業を行うためには、人と人とのつながりが大切です。そして常に「感謝の心」を持ち、相手の立場に立って考え、行動することで、信頼関係を築くことができます。その信頼関係を構築した上で、熱意を持って誠実に対応することが、モノづくりには大切であると考えます。商売は一つの契約が終わったら終わりではなく、そこからまた始まるものだと考えており、継続してつなげていくことが大切です。

また、「生きがいのある生活」は、「感謝の心」を持つための前提と言えるでしょう。自分自身が自らの生活に納得することができなければ、おそらく「感謝の心」を持つことはできません。「お客様の満足は社員の満足から」とよく言われますが、社員が満足できてこそ地域社会に貢献できると考えています。そして、お客様の満足が強ければ強いほど、会社の存続にもつながり、良い循環が生まれるのではないかと考えています。

トータルサービスの実現

——事業内容について教えてください。

当社の事業は、携帯電話・デジタルカメラ・パソコン・タッチパネルなどの携帯機器事業が約40%、車載関係事業が約25%、医療・セキュリティ関係事業が約20%、携帯電話・太陽光発電などの販売事業が約



異種材料の接合
特許番号：4020957

15%という構成となっています。特に、携帯機器事業と車載関係事業の二つの事業が当社の大きな柱です。携帯機器事業では、iPadやタッチセンサーの部品など、時代のニーズに臨機応変に対応しながら事業展開を行っています。また車載関係事業は、今後ますます需要が期待される事業であり、形式にとられない独自の技術により、国内における基盤を築いていきたいと考えています。

当社で扱っているエレクトロニクス素材や部品は、情報産業をはじめとして、家電産業や通信産業、自動車産業、宇宙開発に至るまで、産業界のあらゆる分野・製品に使用され、その可能性は計り知れないものがあると感じています。当社製品としては、部品のみのものであれば、完成品として納品するものもあり、それらを一貫して生産できることが当社の強みの一つです。

——ヤマセグループについて教えてください。

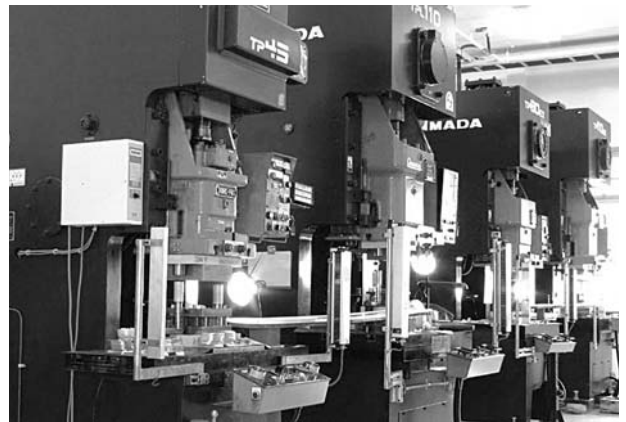
ヤマセグループは、ヤマセ電気株式会社、ヤマセエレクトロニクス株式会社、東北エレクトロ株式会社、アイネックス株式会社の4社で構成されています。4社それぞれが専門会社であり、グループ間で連携することにより、製品の開発から部品調達、金型設計・製作、試作、生産設備、部品加工、量産、納品に至るすべての領域において、高品質なトータルサービスをスピーディーかつローコストで提供できるよう努めています。

当社の美里工場では、技術関係の取りまとめとして製品・生産設備・成形金型・プレス関係の設計や製作を中心に行っています。その後、グループ間で得意分野に分かれ、加工や塗装などを行います。例えば、本社の色麻工場では、精密プレスや自動機を用いた小型精密部品の製造を、ヤマセエレクトロニクス(株)では実装を中心に行います。また、アイネックス(株)では、外装や内装などの塗装分野を専門とし、プラスチック製品に関しては塗装のみならず製造に至るまでの一貫生産を行っています。

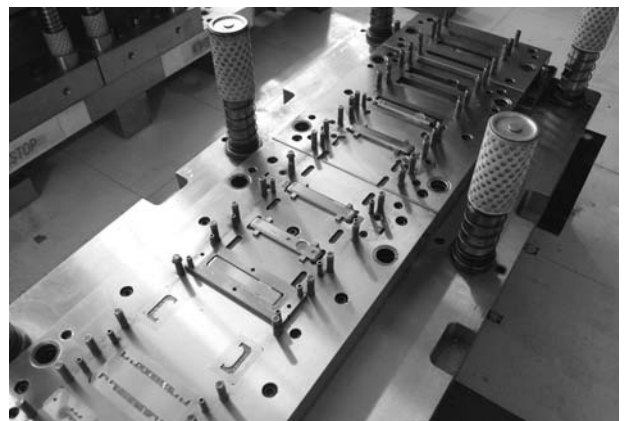
——生産体制の特徴について教えてください。

当社では、企画・設計部門と各工場を最長でも一時間強で結ぶことができる物流ネットワークを構築しているため、「短納期」で生産することが可能です。また、部品加工から完成品の出荷までの「一貫生産」を行うことで、保管や輸送におけるコスト削減を可能にし、高品質かつ低価格な製品の提供を実現しています。当社グループですべて行うことができるため、急な変更や増産にも対応できる優位性を持っています。

当社の組立部門では、「セル生産体制」をとっています。「セル」とは、細胞のように小さい単位のことを言います。セル生産は、従来のベルトコンベアによる大量生産とは対称的な生産体制であり、一人が責任を持って全工程を行うため、個人の持つスキルが重要となります。現在では製品の種類が多様化し、お客様の選択する幅が非常に広がっていますが、社員一人が全工程を行い、効率的な生産を行う



プレス工程



順送プレス金型

ことで、多品種少量生産や変種変量生産に対応することができます。

総合力で勝負

——営業活動について教えてください。

当社では、開発力、技術力、行動力、管理能力などを合わせた総合力で勝負しています。特に技術力では、グループ会社の専門技術を結集することで、一つの製品を当社で一貫生産することができるという優位性があります。この総合力を最大限に発揮することによって、従来のモノづくりにとらわれず、積極果敢に挑戦し続けています。

また、当社にはお客様の難しい要求にも十分応えることができる「提案力」があります。これは、様々な技術を様々な角度から吸収し蓄積してきたものであり、それらを応用し組み合わせることで、



成形工程



実装工程



塗装工程

よりお客様のニーズに合った提案を可能にしています。この「提案力」により、お客様のニーズを具現化し、納得してもらえるような最良のソリューションの提供に努めています。

——人材育成についてお聞かせください。

当社の求める人材は、心身ともに健全で明るく、責任感が強く、仕事に情熱を燃やせる人です。そして、経営理念にも掲げているように「感謝の心」を大切に、誠実さと約束事を必ず遂行する行動力を重視しています。取組み姿勢がきちんとできており、前向きに仕事ができる人であれば、企業がしっかり教育することで対応できると考えています。

また当社では、工場運営には円滑なコミュニケーションが大切であると考え、月々の全体会や職場でミーティングを行うなどの職場の風土作りに努めています。品質改善や生産対応技術などの会議も定期

的に行い、また現場での実務スキル向上のために内部研修を実施しております。ISOなどの専門性が必要とされる分野に関しては、外部研修や認定制度を採用するなど人材育成を図っています。特に幹部社員は、益々グローバル化する経営環境に対応できるよう海外研修を実施しております。

無駄をなくす

——環境理念についてお聞かせください。

事業を行うにあたっての当社の判断基準には、「お客様のためになるか」「社員のためになるか」「環境に優しいか」などがあり、特に環境問題へ真摯に取り組んでいます。当社では、「無駄をなくす」ことが一番環境に優しいことだと思っています。もちろん対策は様々ありますが、まずは無駄なものや無駄な動きがないかを見直し、一つでも多く無駄をなくすように努めることが環境問題を解決する一つの手段だと考えています。

——「水系塗装」を導入した経緯や取組みについてお聞かせください。

一般的に、塗装で使用されている有機溶剤は、地球温暖化や大気汚染の原因となる揮発性有機化合物に該当し、世界的に使用が規制されるようになってきています。特にヨーロッパでは、その動きが顕著であり、日本でも自動車業界をはじめ様々な業界において、脱有機溶剤へと移行する動きが出てきています。

ヤマセグループの塗装部門を担当するアイネックス㈱では、「地球環境に優しい」モノづくりを重視する観点から、10年程前から塗装の内製化の準備を進めてまいりました。課題とされていた強度などを克服することで、水系塗装でも有機溶剤を使用した塗装と変わらない品質で供給することが可能となっています。また現在では、携帯電話のような小型部品に限らず、30cm角の大型部品も同水準で量産することが可能です。有機溶剤を使用した塗装と水系塗装では製造ラインが異なりますが、今後改善を加え水系塗装ラインを強化し、環境に優しい塗装を進めてまいります。



中国 シンセン工場

徹底して挑み続ける

——今後の事業展開についてお聞かせください。

今後は、多様化するニーズに迅速に対応し、当社の技術力を活かすことで、常に時代を先行しながら、より多様な分野に参入していきたいと考えています。そのためにも革新的な製造現場の構築に努めていきたいと思っています。

製造業の現場においては、製品の大量生産のニーズは減っており、高品質が求められています。中国のシンセン工場では、金型やフレキ基盤などの取引が順調に増えてきております。また、昨年末からはパソコンや携帯電話に使用されるデジタイザに力を入れており、今後量産を計画しております。中国以外では、韓国や東南アジアなどもマーケットだと考え、事業に邁進していきたいと思っています。当社では、研修生として中国人を受け入れており、将来的には中国における研究・開発などの分野で活躍してもらいたいと考えています。そして、中国を一つの拠点にすることで、低価格かつ高品質な製品造りを目指していきたいと考えています。

——最後にこれから起業する方へアドバイスをお願いします。

モノづくりは日々変化するものであるため、製造現場では、生産の仕組みや人材育成などをきちんとしていかなければうまくいきません。モノづくりにおいては、真面目に、愚直に、そして不良品を出さないような現場づくりに努める必要があります。非常にやりがいのある仕事であり、情熱を込めて作ることが付加価値を高くすると感じています。

事業を行うには難しい時代ですが、いつの時代でも同じです。「好きこそものの上手なれ」という言葉があるように、自分の意志を形にしたいという強い思いがあれば、成功に限りなく近づくのではないかと思います。実現するまで徹底して挑み続けることこそが大切なことだと考えます。



小林社長

長時間にわたりありがとうございました。御社の今後ますますの御発展をお祈り申し上げます。

(22. 8. 27取材)